

新学習指導要領に基づいた
子供たちの学びの充実を目指して
～「資質・能力の三つの柱」～

千葉県立銚子特別支援学校 電話 0479-22-0243
FAX 0479-25-0551



研究のポイント

学習指導要領の改訂に伴い、「資質・能力の三つの柱」について理解を深めながら実践を行っていく。複数の障害に対する教育課程を検討するにあたって、学習指導要領を踏まえた目標設定(個別の指導計画等)、授業実践、学習評価の在り方について、事例研究を通して探っていく。取り組みの際には、各教科等チェックシート(千葉県総合教育センター特別支援教育部作成)等を参考にし、個別の指導計画の見直しや指導の改善を目指していく。実践を通して、子供たちの学びの充実を図り、学びの連続性を重視した教育課程を実現させることを目的とする。

■学校の概要 <https://cms2.chiba-c.ed.jp/choshi-sh/>

本校は昭和37年に銚子市の特殊学級として発足し、昭和38年に銚子市立養護学校として開校した。知的障害、肢体不自由のある幼児児童生徒を対象とした学校であり、全校で92名が在籍している。現在は幼稚部・小学部・中学部・高等部が設置されており、幼児児童生徒の実態の幅に対応する教育課程として、「準ずる教育課程」「教科等を合わせた教育課程」「自立活動を主とする教育課程」を設けて教育活動を展開している。また、本校には寄宿舎があり、個々の子供たちの自立に向けた基本的生活習慣の確立と社会性の育成を目指して、指導を行っている。令和3年度は、舎生11名(小学部1名、中学部5名、高等部5名)が入舎しており、学習指導との関連を図りながら生活指導を展開している。

■研究課題

複数の障害に対応できる教育課程において、個に応じた幼児児童生徒の質の高い学びを実現するために、各教科等チェックシート等の資料を参考とした個別の指導計画や評価の在り方についての実践研究を行う。

■研究の目的と方法

【研究の目的】

- (1)学習指導要領を踏まえた指導・支援の工夫を図ることで、子供たちの学習や生活の充実を目指す。
- (2)「資質・能力の三つの柱」を関連させた学習目標の設定を目指すことで、子供たちの育成すべき力を明確にした教育課程の実現に向けて改善を図る。

【研究の方法】

幼稚部・小学部・中学部・高等部の取組

幼稚部と小学部、中学部、高等部の3つのグループで研究を進め、各自所属する部で研究を行う。学部ごとに小グループを設け、事例児童生徒を抽出して年間を通して下記の事項について幼児児童生徒の変容を基に事例研究を行う。

- ①学習指導要領を踏まえた目標設定、実践、評価までのつながりをもった教育活動を展開し、子供たちの学びや生活の充実を図る。

②「資質・能力の三つの柱」を意識した学習内容になっているかを探る。

寄宿部の取組

適切な目標設定を図るために、「寄宿部版チェックシート」(試案)を作成し、小グループに分かれて年間を通して事例研究を行う。

○実態把握⇒ 実践 ⇒ 振り返り〈PDCA サイクルでの振り返り、子供の生活の質の向上〉

■研究概要

【幼稚部・小学部・中学部・高等部の取組】

①学習指導要領を踏まえた指導・支援の工夫を図ることで、子供たちの学習や生活の充実を目指す。

【成果】

- ◎教科の目標がより明確になり、「各教科等を合わせた指導」の学習場面では、関連する教科への意識をもつことができた。
- ◎児童生徒の実態についてさらに細かく見ることができ、手立ての具体化につながった。現在の学習を積み重ねていくことの大切さを感じた。
- ◎日常生活と関連した学習目標、学習内容にすることで、教科以外の場面でも目標につながったり、広げたりすることができた。

【課題】

- 他の教科との関連を考え、目標設定や評価をするには難しかった。
 - 授業を行う際に、教育活動を「教科」で進めていくか、「各教科等を合わせた指導」で行うかの検討。また、合わせた指導の際、関連する教科の視点への意識をどうもつか。
 - 実態から各教科等チェックシートの活用が難しかった。
- ②「資質・能力の三つの柱」を関連させた学習目標の設定を目指すことで、子供たちの育成すべき力を明確にした教育課程の実現に向けて改善を図る。

【成果】

- ◎授業の振り返りが整理され、次の授業や日常生活の場面へとつなげることができた。また、授業後の評価から年度途中での個別の指導計画の見直しにつなげることができた。
- ◎三つの柱を通して、実態・目標設定・授業作りを考えるだけでなく、児童の実態を見て三つの柱との段階のすり合わせを行うことの両方の視点が大切であると確認できた。
- ◎新しい学習指導要領について学校全体で学び、教育課程について活発に話し合いを行うことができた。教科を意識してみて、良い部分、難しかった部分を研究日に話し合うことができた。

【課題】

- 個別の指導計画や授業の目標設定、評価をする際に、「資質・能力の三つの柱」の内容を、一人ずつ子供たちに落とし込む難しさ。
- 「資質・能力の三つの柱」への理解を深める研修の必要性。

【寄宿部の取り組み】

学習指導要領の生活科の資料や国際生活機能分類(ICF)等を参考にして本校寄宿部独自の「寄宿部版チェックシート」を作成。

成果

- ◎「寄宿部版チェックシート」を活用したことで、児童生徒の課題について焦点を絞り職員間で共有することができた。

課題

- 「定義シート」が障害種により個々の舎生に当てはまりにくいケースがあった。

関連資料

- ・特別支援学校 幼稚部 教育要領
- ・特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領
- ・特別支援学校 高等部学習指導要領
- ・その他 解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)
- ・特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)
- ・千葉県総合教育センター特別支援教育部「各教科等チェックシート」
- ・特別支援教育のカリキュラム・マネジメント 段階毎に構築する実践ガイド 一木 薫著 慶應義塾大学出版社

【講評】

県立銚子特別支援学校の実践について

昨年度より、「新学習指導要領に基づいた子供たちの学びの充実を目指して」というテーマで、目標設定と評価の見直し等に取り組んでいただきました。千葉県総合教育センターの各教科等チェックシート等を参考にしながら、学部を超えて同じシートを使い、児童生徒の実態を把握したことは、大変意義深いことです。

昨年度の取組を踏まえ、今年度は、幼稚部から高等部まで事例児を挙げ、1学期、2学期の2回の授業実践を行ったことで、目標設定及び評価、改善という一連の流れについて学校全体で取り組むことができました。多様な障害種の幼児児童生徒が在籍する銚子特別支援学校において、同じ視点で幼児児童生徒の実態を把握し、目標設定及び学習評価の在り方について研究を行った成果は、全ての特別支援学校に還元できるものだと考えます。

今後は、銚子特別支援学校の成果と課題を基に、幼児児童生徒の学びの充実を図り、学びの連続性を重視した教育課程を実現することを期待しております。